

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所 グループホーム 泰山木

日付 平成19年7月31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

麦藁(むぎわら)の加工品が尊重された時代の代表商品として、麦わら帽子などがあり、夏になると大人から子供まで外で被って夏の強い日差しから身を守る物として大切な生活必需品だった。その産業の一つが、この地域にも栄え、麦藁を真田織にした紐を各家庭での内職として家内工業を支えた時代があったと聞いている。多くのグループホームでは、新聞折込広告紙を活用して真田織の紐にして、物入れや箱などをよく作っているのを見ていた。このグループホームは、地域の伝統の中に立地して、広告紙を活用して真田紐を使って多くの品物を作り、表面加工でも性能を高めて付加価値をつけて多くの商品化をしている。そして、地域のバザーの場で、これらの商品を販売しているようだ。

原料としての広告紙の再利用をして、多くの利用者が真田紐作りに参加して材料加工を担い、それを使った商品開発を色々な分野に広げ、品質やデザインで付加価値を高めて商品化している。その過程で、利用者や職員が参加し、役割分担をして商品をつくり、世の中で使ってもらえる商品提供をしていくという小工業を形づくっていることにびっくりした。利用者からも、この商品が買ってもらっているということを声にしており、その意識を持っていた。

最終に得られる売上高とか利益の大小は別問題として、多くの利用者が参加して、自分の出来る範囲で役割分担して、人の役に立ち、人に喜ばれる商品を皆の力で作り上げていくのを見ると、認知症になっても「自分らしく生きる」「自分の持っている能力を発揮して生きがいを見出している」という利用者の活力をうまく導き出しているなあと実感した。どこでも自分らしくとか生きがいを持ってという表現をしているが、このような言葉を抽象的にのみ使っている所が殆んどであるという実態の中で、利用者も目的をきっちり意識して一つの作業に参加して、他人に役立ち、喜んでもらっている仕事が具体的にできていることで、まさに利用者の生きがいについて見せてもらった。

法人全体としては、この地域の中で医療・福祉・介護を一体化して社会貢献している実体が根付いており、その事業所として平成17年にグループホームを設立した。理念と年次計画や目標を職員で一つひとつしっかり積み重ねていこうとする努力の姿を見ることができた。

特に改善の余地があると思われる点

職員の申し送り、ミーティング、介護計画作成、介護・生活記録、その他業務一つひとつを確実に実施して、このホームの表面舞台を作り出しており、業務改善は日々確実に積み重ねていっている。これらの業務は、お互いの仕事に関連し合い、支え合って成り立っていると思うので、ホーム全体を見つめた上で、メリハリをつけた仕事の計画や記録を作っていってもらいたいと思う。

上記に関連して、仕事の評価、一つひとつの業務改善のモニタリングの結果が明確になっていないような気がする。実施した結果の評価あつての計画や目標であるという意識をもっと見たいと期待している。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	1. 自主評価について…: 評価項目全体としてこの項で説明すると、自主評価として改善したいという事項は沢山持っていますが、今回の評価項目の区分や要改善の表示の仕方では表現のしようがない面もあって、理念についても要改善として表わす事ができていなかったと思う。		
記述回答	2. 全体的に見て…: 法人全体として、利用者の人格を尊び、自分らしく生活してもらえらるために、職員がどのような立場に立てば良いか、精神力や社会的規範を理念として唱えている。この理念を事業所毎に実現していく為に、毎年度計画と目標をつくらせている。グループホームでも実行目標をつくり、その実施する為の手順を明確にしている。これらは、リビングルームや事務所に掲示し、ミーティング等で具体的な行動を議論して、職員間での意識を高めている。そして、利用者・家族・職員間での信頼構築と人間関係を大切にしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	1. 自主評価について…: 特に生活空間づくりについて具体的な改善事項はあげていないが、生活空間の環境づくりはハードな事だけでなく、利用者や職員が生活している雰囲気や活力で、ハード面の既空間が活きていくこととなるだろう。		
	2. 全体的に見て…: 開放感のある明るいうリビングルームには、テレビとソファがあり、回転式で座り心地の良い食卓テーブル、一段高い畳の間がある。利用者はその日の気分に合わせて、お気に入りの場所で寛いでいる。周囲にもゆとりのある広いスペースがあり、眺めも良く外の様子もリビングルームから感じることができる。隣接のデイサービスに行くと、手芸を習って作品を持って帰る人もいる。上下階の2つのユニットの利用者もお互いの居場所に行き交い、気分転換をしたり、交流を深めている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	1. 自主評価について…: 介護計画の作成・見直しについて、アセスメントやモニタリングの方法や作成上の様式変更等で改良しようとしている。利用者の健康管理も大切にして、もっと親密にしていこうとする意欲を感じている。利用者の高齢化や重症化によって実践に合わない評価項目は、評価不能としてサービス評価の意義もよく把握している。		
	2. 全体的に見て…: 利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーをしっかりと保って生活していることに職員は努力している。利用者のペースを尊重し、それぞれの意志や感情の把握を大切にしている。その人の持っている能力を人に役立つことで喜んでもらうことにも力を入れている。これらは総合して、「自分らしく生きる」「生きがいを見出して生活する」ことを実現させてあげられるよう職員全員が頑張っている姿を見せてもらった。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	1. 自主評価について…: 特に要改善項目はないが、管理者や職員の気持ちは、色々な評価項目について、個々に改善していかなければならない課題を持っている。今後共、前向きな姿勢を維持し、地域貢献していく事を期待している。		
	2. 全体的に見て…: 統括管理者は、この地で生まれ育ち、地域との馴染みが深い。地元住民と同様に近くの公園の年2回の草取りや、地域行事には、利用者も一緒に参加している。普通の家のようになりたいから、ホームには看板も掲げていない。近所の人は、出来た野菜をくれたり、畑の作り方を教えてくれたりする。ホームに遊びに来て話をしたりと、ごく普通の近所づきあいをしている。「地域の敬老会や、夏祭り・盆踊りなどに誘ってくれて、行くと本当によくしてくれる。地域の皆さんが支えて下さったからこそ、このホームは運営出来ているんです。」と統括管理者は言う。どの事業所も課題となりがちな地域交流を円滑にするヒントが見つかった気がした。		